

# 都の風 MIYAKO NO KAZE



新春  
号

2016年 No.44

- 発行／都会メディカルケアシステム 渡辺 康介
- 編集／地域広報委員会 京都市北区大宮南田尻町59番地
- ホームページ／<http://www.miyakokai.or.jp/>
- お問い合わせ／info@miyakokai.or.jp

## 理念

- 患者様・ご利用者様の立場にたったキュア(医療)・ケア(介護)を提供いたします
- 医療・介護・福祉を通して地域、社会に貢献いたします
- 職員の質の向上をはかります

久富 規矩子様 98歳  
ひさとみ きくこ  
生年月日 大正6年7月5日生まれ 左京区在住

## 新春のご挨拶



医療法人 社団 都会

理事長 渡辺 康介

新年あけましておめでとうございます

今年は申年、10年前に亡くなつた父が生きていれば8回目の年男となります。日本人の平均寿命は縄文時代14・6歳、江戸時代20・3歳、大正時代男42・06歳女43・20歳、昭和・戦後すぐ男50・06歳女53・96歳で平成の今、男80・50歳女86・83歳となっています。ただ昔は赤子がたくさんバタバタとなるので平均寿命は短かったようです。普通は40～50歳位で流行り病でなくなるのが自然だったようです。25万年間人類はそうやって生きてきたのです。戦国時代織田信長が人間50年下天の内をくらぶれば、夢幻のこととなり、ひとたび生を得て滅せぬものあるべきか幸若舞(敦盛)

次ページへ

No.44

都の風通信

## キャロリングナイト

12月20日(日)に御園橋商店街でクリスマスコンサートが行われました。今年も韓国からゴスペルハウス教会子供聖歌隊の子供たちに来て頂き、讃美歌や赤鼻のトナカイなどの曲の合唱、クラリネット演奏・息のあったハンドベル演奏など素晴らしいコンサートをして下さいました。

気温10度を下回る寒空の中でしたが、ライトアップされた会場でお客さんと一緒に合唱や、子供たちの綺麗な歌声が響いたその空間はまさにクリスマスマード満点で聴いているお客様の心も暖かくしてくれました。また、来年もお楽しみにしてください。



## ニシナリエ 点灯



今年も「医療福祉複合施設にしがも」前ではイルミネーションが美しく輝いています。桜の木のイルミネーションに加え今年は、駐車場側の壁一面にも壮大な光の装飾が綺麗に飾られています。今年は3月頃までライトアップをしていますので近くにお越しの際には御覧になってくださいね。

## メドルサム基金

善意の淨財を、皆様のより良い生活のお手伝いのためのボランティア活動に活用させていただきます。中村正治様どうもありがとうございました。

しかし1歳でなくなれば1

1／2で0.5と1年が小さくなりますが、その差は0.5でかなり大きいように思います。だから年齢を重ねれば重ねるほど「年(豆)、感

# 都会メディカルケアシステム学会



今日は私も8年振りの発表をさせて頂く機会を頂き、「事例検討会から得た気付いや学び」について発表を致しました。事例検討会を通してケアマネジメントにおける自分自身の弱点や不足していた部分に気付けたこと、多職種で話し合う事で自分にはなかつた様々な視点が得られる、とこうつ事を発表させて頂きました。

渡辺西賀茂診療所 居宅介護支援事業所 櫻井直哉

学会での論文発表は知らない知識を吸収できる良い機会となりました。特に興味深かつた発表は「若年性認知症の方とともに生きる」つるさんかめさんの取り組み」です。意味性認知症を持つ利用者様に対する課題に、「どう取り組まれたか」を発表され、もし、自分がその方を対応するとなになつたら、どう向き合えばいいのか考えさせられました。また、他にも聞き慣れない語句があつたため、調べるきっかけにもなりました。

西賀茂デイサービスセンター 藤井 優菜

西賀茂ティーセンター 藤井 優菜  
学会では認知症ケアをテーマに演題発表を行いました。普段のご利用者様との関わりを振り返り、先入観を持たないよう心にする必要があることに気がつき、人として真摯な姿勢で関わりを持つことの大切さを再認識しました。

ショートステイにしがも 堤裕 亮

ホームページリユーアルを公表させていただきました。大田さんが製作し、都会の頑張りがきちんとアツプされるわかりやすいものになりました。都会メディカルケア学会もホームページに掲載できたらいいなと思っています。

訪問看護ステーションこころも 森山 文則

演題発表を聞き名事業所の課題や取り組み、考察を学ぶことが出来ました。多職種協働がスマーズに行えるよう診療所事務も日々の情報共有に努め在宅療養支援の力になりたいと思います。

5でかなり大きいように思えます。だから年齢を重ねれば重ねるほど1年が短く感じられるようになります。そういう人生が短いほうが中味は濃密なんだと思います。どうせ明日もあるんだと明日も生きているんだと思うと明日をいい加減に過ごしたり。死ぬことがあるなんてとても考えられないとかつてに思つて、いたりします。墓参りに行きました。曾祖父や曾祖母の享年をみると60歳代がほとんどで中に22～23歳でなくなつていります。今自分がその歳になつてほんのすこし前まで人生短かつたんだとあらためて考えさせられました。そういう事で今年は死を意識しながらも1日1日を濃く、生き永らえられていることに感謝しつつ思ひます。

秋のシルバーウィークを利用して奄美大島で行われた大会に参加しました。この大会では在宅ホスピスでの他職種連携とTHP（トータルヘルスプロンナー）の役割について学びました。余り聞きなれないTHPとは在宅での医療と生活を支えるためのキー・パーソンとなる人物で、患者や家族に起ころる問題を予測し、チームアプローチの必要性を理解したマネジメントの出来る人物のことです。現在日本にはTHPとして認定を受けたかたが34人おられその大半は看護師が担つているとのことです。又奄美大島の主任介護支援専門員のM氏は島の限られた資源のなかで同じようにTHPの働きを行つておられ、退院調整や在宅支援をされていると話されていたことが印象的でした。

今後起つてくる多死社会に向けて在宅での看取りが重要となつてく

することは確かに、「希望死・満足死・納得死」が出来る環境づくりが課題となつてくる。その為にケアマネージャーもさらに学びが必要であるということを教えられました。

奄美大島の大自然を目の当たりにして心身ともに大きな刺激を受けた研修の時となりました。



「医療・介護サービスに従事する者にとってサービスの質の向上は重要な課題です。努力が実り、「ありがとう」とおひしゃつて頂ける事が私達の目標ですが、時には厳しいお言葉を頂戴することもあります。しかし、そんな時にこそ私達が勉強させて頂く機会だと考え、活動してるのが「サービス向上委員会」です。

毎月一回の委員会で、利用者ご家族から各事業所に寄せられた意見について話し合って行い再発防止、周知徹底に努めています。また他にも法人内で職員向けに接遇マナーの研修なども行い自己研鑽に励めるようになります。

そしごれからもサービスの質の向上を目指し、利用者ご家族からより一層信頼して頂ける事業所になつて頂けるよう法人全体で取り組み、その一端を私達サービス向上委員会が担つて頂かるよう頑張つてきました

これからもサービスの質の向上を  
ご利用者ご家族からより一層信頼し  
る事業所になつていけるよう法人全  
員組み、その一端を私達サービス向上  
が担つて頂けるよう頑張つていきた  
いします。

毎年都会の学会発表を聞かせて頂いています  
が、今年度は司会者という立場から皆様の発表  
を聞かせて頂きました。本当に私にとても分かり  
やすく、また聞きやすい皆様の発表だったと思い  
ます。今後もこのような発表をする機会が増えれ  
ば、発表をする側も聞く側もとても良い経験にな  
ると思いました。

グルーブホームほっこり庵 徳田 雄亮

ナルに日々訪問する私達ヘルパーの関わりを発表しました。そこまで歩み寄り安心して頂けたのか分かりませんが、これからも少しでも安心してもらえるヘルパーでいたいと思います。

ホームヘルプステーションであり 内村 奈未

森脇 晃史

今回、私は初めて日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会に参加させていただきました。さまでまなホスピスや在宅ケアの実践、それに関する研究報告を聴くことができ、学びの多い時間を過ごすことができました。

その中でも印象的だった発表は、小児の在宅ケアに関するものでした。最近、小児のリハビリを担当させていただく機会があり、初めての経験に試行錯誤の日々を過ごしていましたが、自分自身の実践について改めて考える良い機会になつたと 思います。また、純粹に子どもやご家族の方と一緒に楽しみながら時間を過ごすことの大切さも感じることができました。

まだまだ力足りずの部分も多くありますが、これからも自分なりに色々なことを学び、感じ考え、それらを実践に活かしていきたいと思います。

# 第18回日本在宅ホスピス協会の

## 全国大会に出席して

## 〈委員会紹介〉